

環境負荷を低減し地域が潤う農業の仕組みの確立

株式会社坂ノ途中 × 静岡市農業政策課 | 所在地 〒424-8701 静岡市清水区旭町6-8 清水庁舎6階 経済局農政部農業政策課みどりの食料システム係 | メールアドレス nougyouseisaku@city.shizuoka.lg.jp | 担当者 農業政策課 みどりの食料システム係 浅野 俊

インパクトサマリー

2026年3月現在

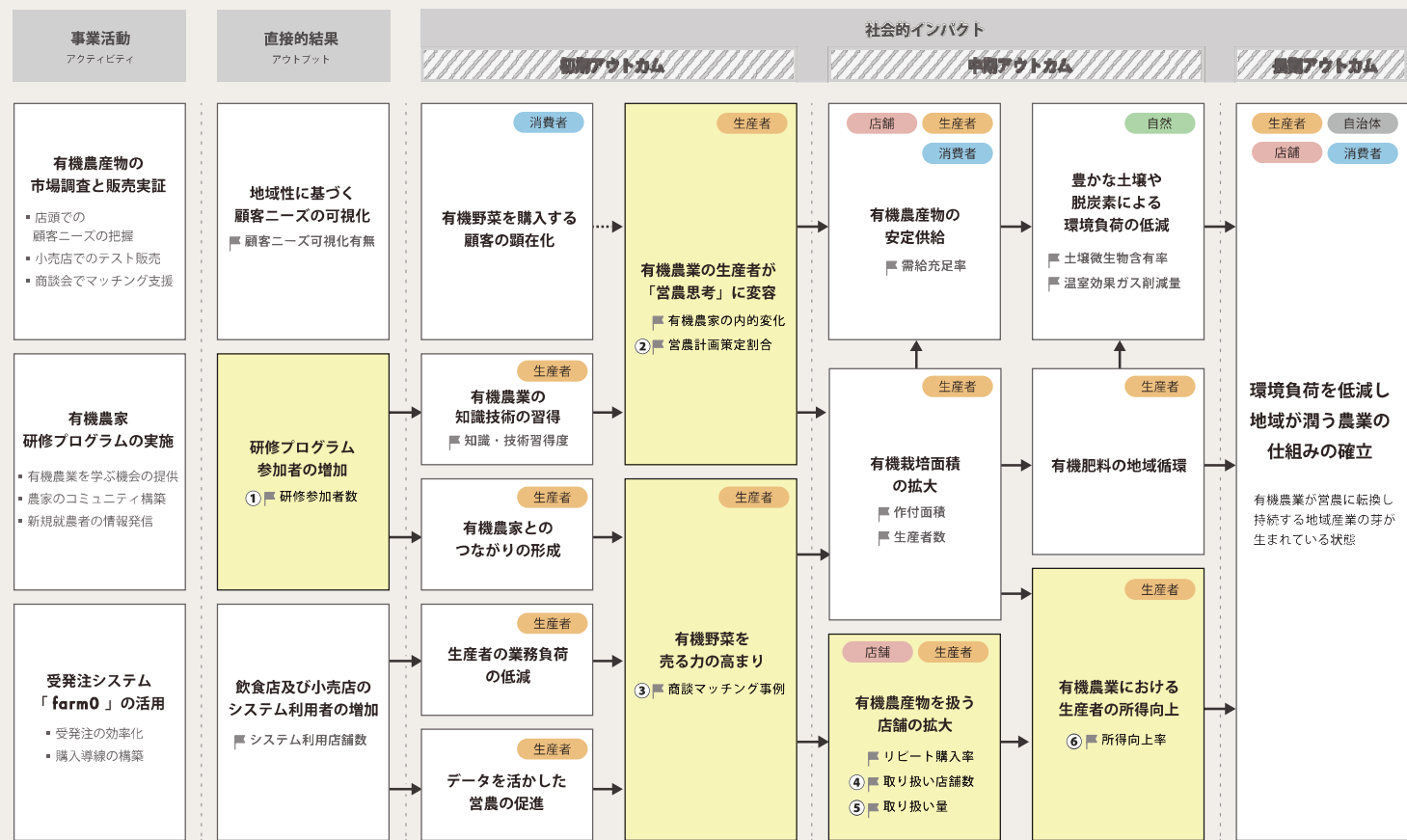
対象としている社会課題

静岡市では、環境への負担を減らし地域経済を活性化するため、有機農業の振興を重点施策としていますが、市内の有機生産者は2025年度時点で20名、栽培面積は4,029aにとどまっており、野菜生産者は全体の1割弱と依然として少ない状況です。販売先の確保や収益の低さ、担い手不足が有機農業の普及を妨げており、小売店や青果バイヤーは生産者と接点を持ちにくく、一方で生産者側も販路拡大という課題を抱えています。そのため、有機農業は十分に事業として成り立っていません。さらに高齢化や担い手不足から耕作放棄地が増加している現状をふまえ、有機生産者の育成と販路拡大の両方に同時に取り組むことが求められています。

インパクト戦略

「生産 × 流通 × 消費」を一体的に整えることで、生産者の所得向上と担い手の増加を最も重要な目標としています。そのため、顧客ニーズの調査やテスト販売、商談会などを通じて収益の柱を作り、安定した販路の確保に努めます。また、受発注システムを導入して事務作業の負担を軽減し、研修を通じて新たな就農者の育成にも取り組みます。さらに、耕作放棄地の活用や有機肥料の循環を進めることで、生産者の負担を和らげ、環境にやさしい循環型農業を目指します。これらの取り組みによって、持続可能な有機農業のモデルを確立し、地域全体でその価値を広く共有していく考えです。

ロジックモデル めざす社会的な成果を明確にし、辿り着くための道筋を表した「社会的インパクトをうみだす設計図」



共創メッセージコメント 静岡市農業政策課 みどりの食料システム係 浅野 俊

静岡市は2025年にオーガニックビレッジ宣言を行い、有機農業の生産から消費まで地域ぐるみで支える仕組みづくりを進めています。坂ノ途中との共創により、環境負荷を減らし地域経済を潤す農業モデルを実証し、農業を持続可能なものになりたいと考えています。この取組は、行政や生産者だけで完結するものではありません。有機農産物の購入や研修への参加など、市民や企業の皆さまもぜひこの取り組みに関わってください。有機農業は土壌や生物多様性を守るだけでなく、食の安全性や未来への投資にもなります。皆さまと共に挑戦し、静岡市の有機農業という新たな価値を育てていきたいと考えています。ぜひお力添えください。



取組内容

市内有機農業の育成環境整備

市内有機生産者5名及び小売店3社へのヒアリング調査を実施し、生産状況や販売ニーズの把握を行いました。調査結果を参考として、生産技術の向上に資する取組を進めるとともに、実店舗における有機農産物のテスト販売を実施する予定です。また、商談会を開催し、市内有機生産者や関連事業者同士のマッチング機会を創出しました。今後も実証を重ねながら需要を見える化し、各ステークホルダーの実状に応じた支援を継続します。静岡市産有機農産物の付加価値向上を図るとともに、既存生産者の栽培技術向上及び新規就農者や有機転換希望者の増加につなげていきます。

受発注システム「farmO(ファーモ)」の導入

「farmO」は、生産者と買い手をつなぐだけでなく、納品書・請求書の作成や販売データ管理を一括で行える販売管理ツールです。煩雑な受発注や出荷調整をデジタル化することで、生産者が農作業に集中できる環境を整えます。また、蓄積されたデータを次シーズンの作付け計画に活用することで、業務負担の軽減と安定供給の両立が期待できます。さらに、市内の複数の生産者や事業者がグループで導入・活用すれば、地域全体の流通効率を向上させることが可能です。



主な成果



共創メッセージコメント 株式会社坂ノ途中 坂ノ途中の研究室 舩田 菜緒

坂ノ途中は、「100年先もつづく、農業を。」というメッセージを掲げ、環境負荷の小さい農法で栽培された農産物や加工品を販売しています。国内では野菜、海外ではコーヒーを中心に、少量不安定な生産でも品質が高ければ適正な価格で販売できるサプライチェーンの構築に取り組み、持続可能な農業の普及を目指しています。暮らしのすぐそばに農業がある静岡市で、その風土を活かし、持続可能な未来をつくる「静岡市ならではの農業モデル」をともに考え、取り組んでいきましょう。みなさまのご参画をお待ちしています。

